

MINAMI AIZU

広報
みなみあいづ

2021
8
No.185



姉妹で挑む
「プロへの道」



しょうへい
東日本国際大学附属昌平高等学校

かな
1年 佐野夏奈さん(姉)

得意科目は数学。試合前や気分転換をするときは、音楽を聴いたり、読書をしたりするそう。

憧れの選手は、小祝さくらプロ。



地元のゴルフ場から

夢を追いかける

真夏日を迎えた7月半ば。町で唯一のゴルフ場「たかつえカントリークラブ」は、大きくにぎわいを見せ、コース上からは利用客の「ナイスショット」「ファー」威勢のいい掛け声が響いてきます。

スタッフの皆さんも、大忙しの様子でしたが、午後を迎え一段落。ようやくゴルフ場が、落ち着きをとり戻しました。

さあ、練習が始まります。利用客がラウンドを終えた瞬間、たかつえカントリークラブは、とある姉妹が抱く「夢」をサポートする場に様変わり。地元のゴルフ場をフィールドに、プロゴルファーと

いう大きな夢に向かって、今日も黙々とコースを駆け回る二人。今号では、プロゴルファーの道に挑む姉妹の歩みをご紹介します。

「やってみよう！」

その一言が原点

佐野夏奈さん・美奈さん姉妹（伊南上町）がゴルフと出会ったのは、小学生のとき。お父さんと一緒に、栃木県那須塩原市のゴルフ練習場でプロのレッスンを見学したことがきっかけです。

同施設へお子さんを通わせていた知人から、お父さんに「興味があるなら、子どもたちにゴルフを勧めてみたら」と提案があった

ゴルフ中心の生活
「継続は力なり」

を行き来する日々を送っています。

姉の夏奈さんは、中学2年生のとき、日本ジュニアゴルフ選手権に出場するなど、徐々に頭角を現します。活躍が評価され、東北ゴルフ連盟から、2020年度準強化指定選手にも選ばれました。

中学卒業後、さらなる自己研鑽を積むことを決意した夏奈さんは、東日本国際大学附属昌平高等学校の通信制教育課程へ進学します。大会やレッスンのない日には、手押しカートと一緒にコース練習を8時間、身体のケアや練習

の振り返りに2時間、食事や睡眠を除き、1日のほとんどをゴルフに費やしています。

その一方で、義務教育課程に身を置く妹の美奈さん。練習は休日を中心です。時間を有効活用しながら、8月26日から28日にかけて栃木県日光市の「ビートダイゴルフクラブ」で開催される全国中学校ゴルフ選手権（緑の甲子園）での上位入賞に向け、効率的な練習に努めています。

間もなく、進路を決める大事な時期。美奈さん本人は、いわゆるゴルフの強豪校へ進学し、同世代のライバルと一緒に練習をしたいと考えている様子。まずは、その目標をクリアするため、一歩ずつ前へ進んでいます。

7月27日から28日にかけて宮城県松島町の「松島チサンカントリークラブ」で開催された、第26回東北ジュニアゴルフ選手権にも、姉妹で参加。昨年は、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、開催が見送られたため、2年ぶりの出場となります。

二人と同世代で、東北地区でもトップクラスの実力を誇る選手が多数顔を揃える中、焦らず自分の実力を出し切ろうと奮戦。夏奈さんは15〜17歳の部で10位、美奈さんは12〜14歳の部で4位という好成績を残しました。レベルの高い大会を経験することで技術やメンタル面を養い、将来の糧に。「継続は力なり」を体現する二人の姿は、頼もしくありました。

南会津中学校

みな
3年 佐野美奈さん(妹)

得意科目は社会。練習が落ち着いたときは、Youtubeの歌い手動画やアニメを観て、リラックス。

憧れの選手は、申ジエプロ。



姉は「理論派」、妹は「感覚派」 タイプが違うからこそ、お互いを高め合える



練習の合間に、ほっとひと息。気付いたことを共有したり、悩みを相談したり、ときには笑い話をはさんだり。

何気ない会話の時間が、姉妹の心のよりどころ。二人だからこそ、努力し、成長し、挑戦できる。



夢の実現に向け

二人三脚は続く

姉の夏奈さんは「考える」ことから始めるタイプ。情報を分析し、計画を立てる。入念な準備をした上で、大会や練習に臨みます。

また、妹の美奈さんは「感覚」を大切にしているタイプ。どんな場面でも、自分の直感を信じ、突き進んでいきます。

一見すると、二人は相容れないようにも思えますが、全くタイプの異なる存在が、身近にいることは大きな強み。悩みを抱えたり、行き詰ったりしたとしても、別の

視点からアドバイスをすることが出来る。お互いを尊重し合う二人の絆は、固く結ばれています。

まずは、東北ジュニアゴルフ選手権で上位を獲得し、全国の猛者が集う日本ジュニアゴルフ選手権への切符を手にした。

二人の目標は重なります。目の前に立ち足る壁を一つ一つ乗り越え、いずれはプロの道へ。姉妹二人三脚の挑戦は、これからも続いていきます。

南会津町から羽ばたいていく二人の活躍にご期待ください。皆さんからの応援が、きっと二人の力になるはずです。

家族の支えがあったからこそ ゴルフに集中できる

二人の自宅から、たかつえカントリークラブまでは、片道約30分。那須塩原市までレッスンに通うと、片道約2時間。さらに、東北や関東の大会へ参加するとなれば、泊りがけでの移動が伴います。

大都市圏に住むライバルたちにはない、地理的デメリットを抱えながらも大会に参加し、安心して練習に取り組める理由―それは、全力でサポートしてくれる家族の存在にほかなりません。ご両親

の和弘さんと真奈美さんは、ガソリンスタンドを経営する傍ら、常に二人のそばで、成長を見守っています。

年間3万kmを超える遠距離の移動も、疲れを見せず安全運転で送迎してくれる。コンビニやレストランで外食ができるのに、身体のことを考えて、栄養たっぷりのお弁当を作ってくれる。

「いつもそばにいてくれるから安心できる。すごく感謝してるんです」インタビュー中に、はにかみながら両親への思いを語ってくれた夏奈さんと美奈さん。大切な家族や、応援してくれる人たち

インタビュー①
会津高原たかつえ
カントリークラブ
まさかず
佐藤 政和 さん



夏奈さんと美奈さんが、練習に真剣に取り組む姿を、いつも拝見しています。たかつえカントリークラブから、初のプロが誕生することを夢見て、全面的にバックアップをしていきたい。二人に触発され、新たにゴルフを始めるお子さんが増えてくれることも期待します。新しい世代が、伸び伸びとプレーできる環境を守っていきたくて考えています。

インタビュー②

ご両親
かずひろ
和弘 さん
まなみ
真奈美 さん



友だちと遊んだり、一緒にお出かけしたり、人並みの生活ができていない状況を、かわいそうに思うこともあります。それを乗り越えて練習に励む夏奈と美奈を、身体が続く限り支えていきます。二人が追いかける夢を、同じ目線で共有できることが何よりの幸せ。地域の皆さんに応援していただけることが、二人の力になっています。これからも応援をよろしく願っています。

の存在が、プロを志す二人の原動力につながっているように感じました。

二人を待ち受ける 高く険しい道のり

女子は年齢が18歳以上になると、プロテストを受験することができます。試験は3段階に分かれており、成績上位者が次の段階に進むシステム。男子プロテストの合格率が約9%であるのに対し、女子プロテストの合格率はなんと約3%。「狭き門」という言葉が

ピタリと当てはまります。

日本国内で開催される女子プロゴルフツアーへの参加資格を得るため、受験者の中には海外からの参加者も。合格ラインとなる最終試験の上位20位タイを目指した、厳しい戦いが待ち受けています。

ただし、アマチュア大会で優秀な成績を残した選手は、その実力に応じて予選が免除される規定もあり、安定して上位を狙える技術の習得に向け、今日も練習に励む二人の姿があります。

